

第 22 回豊橋市小中高特連携教育推進協議会議事要録

平成 30 年 6 月 6 日 開 催

豊 橋 市 教 育 委 員 会

第 22 回 豊橋市小中高特連携教育推進協議会

日時	平成 30 年 6 月 6 日（水）午後 2 時 00 分～午後 3 時 30 分
場所	男女共同参画センター 第 1 ～ 3 研修室
構成員	山西正泰 教育長 渡辺嘉郎 教育委員 朝倉由美子 教育委員 高橋豊彦 教育委員 内浦有美 教育委員 川村昌宏 時習館高校長 藤原照明 豊橋東高校長 滝澤成人 豊丘高教諭 森田恭弘 豊橋南高教頭 冠者貴樹 豊橋西高教諭 加藤一史 豊橋工業高校長 白井由美子 豊橋商業高校長 丸崎恵子 豊橋高校長 鈴木能成 豊橋聾学校長 白濱菜穂子 豊橋特別支援学校長 山川恭子 くすのき特別支援学校長 水野純夫 松山小学校長 伊丹和彦 八町小学校長 兼子知子 大崎小学校長 古池弘人 教育部長 駒木正清 教育監 （欠席者：宮崎正道 南部中学校長 佐藤充宏 豊岡中学校長）
オブザーバー	平野正也 東三河教育事務所指導課長 吉田明弘 東三河教育事務所指導主事 杉田哲利 田原市教育委員会学校教育課長 中村立志 豊川市教育委員会指導主事 山本重美子 蒲郡市教育委員会課長補佐
事務局	角野洋子 教育政策課長 木下智弘 学校教育課長 他 （全 12 名）

議 事 日 程

- 1 本協議会の概要説明

- 2 副会長の選任

- 3 東三河小中高特連携教育推進協議会の進捗説明

- 4 昨年度までの本協議会活動内容の経緯（食育・食農教育を含む）

- 5 今年度の各分科会活動の方向性
 - (1) 英語教育分科会
 - (2) 理科学教育分科会
 - (3) 特別支援教育分科会

- 6 その他
 - (1) 第Ⅲ期時習館 SSH について
 - (2) 今後の協議会並びに分科会の進め方について

(渡辺会長)

ただ今から、「第22回豊橋市小中高特連携教育推進協議会」を開催いたします。私は、本協議会の会長を務めさせていただきます、教育委員の渡辺でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

はじめに、本協議会の委員につきましては、お手元の委員名簿のとおりですが、公務の都合で欠席をされる委員の代わりに、ご出席をいただきましたみなさまを紹介させていただきます。豊丘高等学校長平松委員の代理として同校教諭滝澤先生、豊橋南高等学校長木下委員の代理として同校教頭森田先生、豊橋西高等学校長西牟田委員の代理として同校教諭冠者先生です。みなさま、忌憚のないご意見を頂ければ幸いに存じます。

さて、本会は平成20年度末に発足しました。平成25年度からは、東三河他市の教育委員会や教育事務所の方々にもオブザーバーとして声かけをさせていただいております。本日は、東三河教育事務所、田原市教育委員会、蒲郡市教育委員会、豊川市教育委員会の先生方にご出席をいただいております。また、各分科会の委員をお引き受けいただいた、みなさま方にもお越しいただいております。

なお、連携教育推進の方向性が議論されますこの協議会終了後には、分科会の開催が予定されています。この協議会の中で、各分科会に依頼したいことが、意見として出てまいりますので、協議事項として取り上げていただければと存じます。

それでは、次第にしたがって、協議会を進めてまいります。はじめに、本協議会について、山西教育長から説明をしていただきます。

(山西教育長)

昨年度まで委員を経験された方々は、本協議会が立ち上がった経緯等をご承知のことと思いますが、今回新たに協議会並びに分科会委員になられた方々が、18名いるということで、改めて本協議会について説明をさせていただきます。

この協議会ができたのは平成21年度です。協議会ができるまでの経緯としましては、教育委員会が策定している教育振興基本計画で、18歳までの子どもの育ちを基軸として、政策や施策を体系化しておりますが、どうしても義務教育を卒業したところで、非常に大きな溝が生まれており、子どもの育ちへの支援が切れてしまうということが問題になっていました。本来、子ども一人一人の成長を願ったときには、この子をどう支援していくかという教育観点の整備や継続していかななくてはいけないという考えが出てくると思います。しかし、義務教育を卒業した段階で切れてしまうということはある意味仕方のないことで、小中学校と高等学校では設置者が違うということ、そして人事制度が違うということでなかなか連携ができないという状況があります。しかし、本市で生まれた子どもたちが、本市の小中学校に通い、その多くの子どもたちが、本市あるいは本市周辺の高等学校に進学をしている状況があります。こう考えたときに、小中学校の連携は図られているので、その延長線上にある高等学校との連携が図られないだろうかということでこの協議会がスタートしたわけであり、市内の県立高校との協議を重ねて、本協議会が平成21年度に設置をされました。その時のメンバーとして、当時は教育委員会が旧制度のため、教育委員長が会長、小中学校長会長・高等学校代表校長が副会長という体制にして、各分科会で10名程度の委員を置いて4分科会を最初にスタートさせたということです。4つの分科会としては、「教員の相互交流」「英語教育」「理科学教育」「特別支援教育」であります。平成26年度に、「教員の相互交流」

分科会を解散して、「情報モラル教育」分科会を立ち上げました。平成27年度には、「情報モラル教育」分科会において一定の成果が得られたということで解散し、その後は、3分科会での活動となっています。また、「小中高連携教育推進協議会」という名前でスタートしましたが、特別支援の名前がないということで、昨年度より「小中高特連携教育推進協議会」と名前を変えてスタートしました。

県教委もこの豊橋市の動きを踏まえながら、東三河教育事務所に特化して予算化を行い、「小中高特連携教育」として、昨年度から「キャリアフレッシュセミナー」をスタートしてくれたということで、豊橋市と東三域という2つの流れで進めているということでもあります。

目的については、「教育活動の連携と系統化を図り、子どもたちの生きる力を育成する」ということでもあります。「連携と系統化」ということで、昨年度の委員である東陽中学校の池崎校長が昨年度の最後の会で、「連携については十分出来上がっている。後は系統化に特化して進めてもらいたい」と言っていた通り、「連携と系統化」を見据えた上で、子ども一人一人の育ちを大人になるまで支援していくということで、みなさんのお知恵をお借りしながら進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

(渡辺会長)

次に、「副会長の選任」に移ります。高等学校の先生から1名、小中学校の先生から1名を選任させていただきます。まず、高等学校の先生は、いかがでしょうか。

(豊橋東高校 藤原校長)

高等学校に関しましては、東三河公立高等学校 校長会会長、愛知県内の教育関係に大変ご堪能である時習館高等学校の川村昌宏校長を推薦します。

(渡辺会長)

続いて、小中学校の先生は、いかがでしょうか。

(八町小学校 伊丹校長)

小中学校については、松山小学校の水野純夫校長を推薦します。

(渡辺会長)

高等学校については川村委員、小中学校については水野委員のご推薦がありましたがご異議はございませんでしょうか。

【「異議なし」の声】

それでは、時習館高等学校長の川村委員と、松山小学校長の水野委員に副会長をお務めいただきます。それでは、副会長席へのご移動をお願いいたします。

(渡辺会長)

なお、会長の職務代理者については、本会の規約「第5条第7号」により、副会長の中から、私が指名をさせていただくことになっていきますので、川村委員にお願いをしますので、みなさまご承知おきください。

(渡辺会長)

続きまして、次第の3「東三河小中高特連携教育推進協議会」の進捗状況等について、東三河教育事務所よりご説明をいただきます。

(東三河教育事務所 平野指導課長)

先程、山西教育長より話がありましたが、東三河教育事務所としましては、一昨年度、東三河小中高特連携教育推進協議会を立ち上げました。昨年度、大きく6つの事業を展開してきました。その事業については、東三河教育事務所指導主事の吉田が説明を申し上げます。

(東三河教育事務所 吉田指導主事)

キャリアフレッシュセミナーについてです。東三河8市町村の中学1年生に、東三河の高等学校の学科紹介と高校生との語り合いを通して、将来の夢や進路を考える機会にしようために開催しました。今年度につきましては、8月25日に愛知大学で開催します。大学のキャンパスをお借りするというので、建物をお借りするだけではありませんが、大学も巻き込みまして大学まで視野を広げてもらいたいと考えています。また、昨年度、高等学校は、公立高等学校のみの参加でしたが、今年度は私立高校のみなさまにもご参加いただきます。保護者のみなさまもご参観いただけますのでぜひご紹介ください。

人事交流連絡会では、学校種間を超え、実際に交流を経験した教諭を招きまして成果等を各校種の管理職の皆様に向けて語っていただく場を設けました。今年度は、交流者3名の報告に合わせまして、愛知県教育委員会特別支援課から講師を招きまして特別支援学校との交流の現状と動向についての講演を予定しています。

最後に、実業高校における初任者研修です。これからは、キャリア教育や進路指導等の幅広い力が求められるということで、実業高校で実施することができました。すでに豊橋市が豊橋工業高校で初任者研修を実施されていまして、大変参考にさせていただきました。今年度は、東三河3市の初任者は三谷水産高校で、新城管内は新城高校で研修を行わせていただきます。より充実した事業になるよう進めてまいります。

(渡辺会長)

ありがとうございます。ただ今の報告について、何かご質問・ご意見等はございませんか。

(渡辺会長)

ご質問・ご意見等はございませんので次に進ませていただきます。

続きまして、次第の4、「今年度の活動の方向性について」進めてまいります。はじめに昨年度までの経緯について、事務局から説明をしていただきます。まず、昨年度の取り組みについて教育政策課よりお願いします。

(教育政策課 角野課長)

昨年度の取り組みにつきましては、本日お持ちいただいた「平成29年度豊橋市小中高特連携教育推進協議会報告書」に詳しく記載してあります。また、この後、各分科会の委員長からもご報告をいただきますので、各分科会の報告後に、ご意見等いただけたらと思います。

(渡辺会長)

次に、「食育・食農に関する小中高特連携の取り組み」について保健給食課よりお願いします。

(保健給食課 三浦課長)

食育・食農の取り組みについて報告させていただきます。昨年度、高等学校の生活文化科など生活に関わる学科の教諭、中学校の家庭科教諭、栄養教諭で食育・食農教育に関する意見交換会を開催しました。会議の中で、高等学校・中学校それぞれ食に関する授業内容を把握したいと声が出され、平成30年度においては、授業参観を相互に実施することにしました。また、7月3日に二川南小学校で開催する食育をテーマとした小学校家庭科研究部授業研究会の開催案内を会議メンバーと高等学校教諭に出させていただきます。

(渡辺会長)

ただ今の報告について、何かご質問・ご意見はございませんか。

(渡辺会長)

それでは、各分科会の委員長から、今年度の研究推進の方向性等についてお話をいただきたいと思います。それでは、最初に「英語教育分科会」です。副委員長の豊橋東高等学校教頭の齋藤委員からご報告をいただきます。

(豊橋東高等学校 齋藤教頭)

本日、英語教育分科会委員長の豊岡中学校佐藤校長が校務のため欠席のため、私が報告させていただきます。

活動方針につきましては、昨年度までの活動を継承・検証し、一層の連携・推進を行うということで、3つの取り組みを考えています。

1つは、公開授業や研究会を通して相互交流の充実を図るということ。2つめに、小中高特の児童生徒・英語科教諭の意識調査を分析するということ。3つめに、小中高特における取り組みの情報発信に努めるということで、昨年度を継承したものです。

そして分科会ですが、年に5回ほど行う予定です。具体的な活動につきましては、授業参観及び研究協議・情報交換ということで、9月から11月にかけて小学校・中学校・高等学校の4校で研究発表会を行います。幸小学校・豊岡中学校・時習館高等学校・豊橋東高等学校を予定しています。また、情報発信としましては、英語部報を年間8回発行しております。現状分析と課題解決ということで、小中高の児童生徒及び教師へのアンケートを実施します。今年度は高等学校にもそのアンケートを広げようと考えています。

最後に、豊橋市教育委員会主催の「イングリッシュキャンプ」に豊橋東高等学校の国際理解コースの生徒が協力させていただいております。

(渡辺会長)

ありがとうございます。ただ今の報告について、何かご質問・ご意見等はございませんか。

(渡辺会長)

昨年と違うところはどこでしょうか。

(豊橋東高等学校 齋藤教頭)

昨年度を継承して行うわけですが、アンケートを高等学校にも広げて分析をするということです。

(渡辺会長)

私が以前、「英語が苦手だったので、苦手をつくらないでください」と言った記憶がありますが、その辺りについては大丈夫でしょうか。

(豊橋東高等学校 齋藤教頭)

授業公開を通しまして、わかりやすい授業を研究し、英語が苦手な生徒にもアクティブラーニングを通して深い学びができるようにしていきたいと思います。

(渡辺会長)

それでは、「理科学教育分科会」に移ります。委員長の時習館高等学校長の川村委員よろしくをお願いします。

(時習館高等学校 川村校長)

今年度も、基本的には昨年度のものをより充実させていきます。

充実の観点としては、授業研究会等について、高等学校も含めて教員の参加を増やしていきたいということです。そのために、できるだけ早く案内等を発出したり、内容をイメージしやすいものにしたりしていく予定です。

もう一つは、夏休みに入ってからすぐに時習館高等学校で行っている小学校の先生を対象とした理科実験講習会についてです。講師を時習館高等学校・豊丘高等学校・豊橋工業高等学校の教諭が行っていますが、限られた時間でできるだけ多くの経験をしてほしいという思いで、多くの内容を詰込みがちのため、内容等について検討していく必要があります。内容については、小学校の授業で実施できる実験や操作方法を実際に経験することが大切であると考えています。講習会に参加した先生のアンケートにもありますが、「酸素を使った実験では、ついつい酸素ボンベを使用してしまうが、実際に薬品を反応させて酸素をつくってみるという体験をさせてもらえてよかった」という感想をいただいております。そういうところを大事にして講習会を実施していきたいと考えています。

さらに、豊橋工業高等学校を会場に高等学校の授業参観を昨年度行いました。様々な実験器具や材料を生徒が実際に使用しているところが見学でき、参加した小中学校の先生には好評でした。今年度も豊橋工業高等学校を会場に、電気・機械・建築の授業の様子を見てもらう予定です。また、豊橋工業高等学校の先生方から、小中学校の授業で使う自作の実験器具の作成など、できる限りの協力をしたいと言ってもらっているため、こうした協力も進めていきたいと考えています。

小中学校の授業研究会については、多くの高等学校の教員が出席できるようにしていきたいと考えております。高等学校の教員は、高等学校学習指導要領の中で物事を考えてしまう傾向があるので、小中学校の児童生徒が、どのようなことを考え、発言・行動していくとい

うことを実際に見て、小中学校の先生方と必要な情報の共有を図りたいと考えています。

(渡辺会長)

ありがとうございます。ただ今の報告について、何かご質問・ご意見等はございませんか。

(高橋教育委員)

実験講習会については、一定の成果があったということで非常に興味深く聞かせていただきました。具体的に、参加人数や講習時間がどれぐらいであったかを聞かせてほしい。また、研修に参加した小中学校の教員が、研修に行ったときはよかったと思ったが、職場に戻ったらもとに戻ってしまうということがよくあるが、本当にその研修がよかったというものがあれば教えてほしい。

(時習館高等学校 川村校長)

小中学校の教員のことについては、把握できないところがあるので遠慮させていただきます。今まで何人の先生が参加したかについては、統計的に積み重ねている数は承知していません。事務局と相談し、参加数を把握しながら、今後どうしていくかということについて計画を立てていきたいと考えています。大切なお指摘をいただけたので参考にしていきたいと思えます。小中学校の教員のことについては、どなたかお願いできますでしょうか。

(八町小学校 伊丹校長)

参加された教員からは、普段使っていない実験器具など使えてよかったと聞いています。人数については把握できていません。理科教育だけではなく、小中学校は新しい学習指導要領に向けて「主体的・対話的で深い学び」の授業準備を進めております。昨年、川村校長より、今の高2の子どもたちからセンター試験が変わるということで、課題解決型授業の準備をしているということをお場で発言されたわけですが、新しい学習指導要領はもちろんのこと、新しいセンター試験に耐えうる子は、今まで豊橋市が目指してきた問題解決学習で培われる力に他ならないと思えます。高等学校の先生には、新しいセンター試験に向けてどのような取り組みをされているか教えていただけるとありがたいです。小中学校については、新学習指導要領に向けて問題解決型授業、覚えて終わりではない授業を模索している状況です。

(時習館高等学校 川村校長)

新しい大学入試、特に国公立においては、今のセンター試験が大学入学共通テストに名称が変わり、マークシート形式から記述式の問題をまずは国語と数学から導入していきます。英語の試験は、今までリスニングに限られていたものをスピーキングまで入れられるように民間の外部試験を活用していくことになっています。どのように活用していくかについては、もう少し先でないといけないのではないかと考えています。新しいテストは、今の高校1年生が2年後に受ける入試から始まります。知識・技能の他に、思考力・判断力・表現力がどれだけ身につけているか、主体的に取り組む能力があるのか、周りの人と一緒に取り組む能力はあるのかということをお、センター試験の後の個別の試験でみていこうという流れであり

ます。特に最近言われているのが、問題解決する能力よりもその前にある問題を見つける力・問いを發する力・疑問に思う力が身につけていないことが問題ではないかと言われていました。問題を見つける力を身につけさせたいと考えています。

(山西教育長)

2点お願いしたいことがあります。

1点目は、小中学校では、年に3校の研究指定をかけてその研究発表校の研究発表会を高等学校の先生方が自由に参観できるようにしています。今、英語教育分科会から、幸小学校・豊岡中学校・時習館高等学校・豊橋東高等学校の4校がやるので参観してくださいと言われていましたが、こういう参観の場が小中学校に対してフルオープンになって、この日のこの学校が公開授業ですので参観してくださいというものが、高等学校はあるのかどうか、自分が聞いてないだけかもしれませんが、もしそういう場があって小中学校に教えていただければ、お互いの授業を見る場が生まれてくる。そういうものがあつたら是非オープンにさせていただけるとありがたいと思います。

もう一つは、前回のこの会で、「時代に即した分科会を1つ作ってはどうか」という話があつたわけですが、最初に「教員の相互交流」が立ち上がって終了し、次に「情報モラル」が立ち上がって終了し、現在3つの分科会で進めているわけですが、あと1つ時代に即した分科会を立ち上げるとしたら、川村校長が言われた大学入試が筆記になるということを受けるとすると、「言語活動」という分科会を立ち上げるとか、食農の話が先程あつたように「食農」を広げていくのか、「主権者教育」という流れが言われ始めているのでそれを一つの分科会として立ち上げていけると考えています。みなさんのご意見をいただいて、もしそういった分科会を立ち上げるとなると、人選を含めて2月のこの会には提案していく必要があります。この後、ご意見がいただけるとありがたいです。

(時習館高等学校 川村校長)

高等学校の公開授業については実施されていると思います。小中学校の先生方にも公開できる場合は、教育委員会を通して紹介していくことはできると思います。本校ならばSSH、SGHの発表会や講演会をできるだけ広報していきたいと思います。

(朝倉教育委員)

理科学教育分科会の取り組みにおいて、高等学校で行っている「理科実験講座」では、専門科目のない小学校の先生が、理科をどう教えていこうかということで、その参考になるものがあればという気持ちで参加していると思います。小中学校の学習指導要領で教える内容が決まっている中で、教えてもらった実験をどうフィードバックしていくのか、先生方が悩みはしないのか、先生の理解度を上げるにとどまっていらないかということに疑問があります。また、内容は、小中学校の先生方からのリクエストで決められているのか、開催する高等学校が決めているのか知りたいです。

(時習館高等学校 川村校長)

理科を専門とされていない小学校の先生方を対象とした「実験講習会」は、化学・物理・生物・地学分野の4つの実験を行っています。内容については、小学校の教科書を参考に決め

ています。体験した実験内容をどのように子どもたちに還元していくかについても、高等学校の先生方が配慮しながら実験を選んで体験してもらっています。実験内容が、小中学校の先生方の要望にベストフィットしているかということは難しいところですが、会の最後にご意見をいただき改善は行っています。

(渡辺会長)

先程、教育長がおっしゃった新しい分科会ですが、時代に即した分科会ということで、何かアイデア等ありますか。

(山西教育長)

今のまま進めていくのか、「食農」を広げていくのか、「言語活動」については、文科省がずっといっているため、理科と英語の分科会はずすでにあるので国語に特化する分科会が1つあってもよいと思います。「主権者教育」については、社会科を中心に行うことになるかと思えます。どの高等学校の校長先生に分科会長をしていただくのかということもあるため、みなさんのご意見をいただければ、2月の会に向けて事務局で動いていけるのでと思っています。他にもアイデアがあれば教えていただきたいです。

(渡辺会長)

先程、川村会長より話がありましたが、大学入試が変わることで連携の在り方について変わることはあるのでしょうか。

(豊橋東高等学校 藤原校長)

大学入試が具体的にどのように変わっていくかにつきましては、我々も情報がつかみきれしていません。入試システムからいっても、小中学校から何かを行っていくものではないと思います。教育長が言われた「言語活動」については、表現力や思考力・判断力につながっていくものなので大切な部分だと思います。大学入試においても、記述をする、話す能力など、言語に関わる力は今後大いに必要になってくるものだと思います。そのため、小中学校から言語活動に特化して高めていくことは重要であると思います。

(高橋教育委員)

先程、川村校長が、「疑問を見つける力がむしろ大事」と言われ、私もそう思います。「疑問を見つけなさい」というのは、よく使う言葉ですが、自ら発意的にというレベルには至っていません。疑問を見つけても、伝える力がないと仕方がないという考え方もあります。AIが発達する時代においては、AIの出した答えですら違うと言える人の方が今後強みになると思います。

(朝倉教育委員)

先日、愛知県の義務教育関係の会で、「プログラミング教育」が小学校に入ってくるという話の中で、算数については入れやすいが、国語の中にはどう入れていくのかということが話題になりました。「プログラミング教育」は思考力を育てるものですが、自分の口で表現するとか文章で表現することについては、「プログラミング教育」では育ちにくいものです。その

ため、「言語能力」を特化して育てていこうとすることは素晴らしいと思うので分科会をぜひ立ち上げてほしいと思います。

(豊橋東高等学校 藤原校長)

高橋委員よりAI等についてお話があったわけですが、先日、TVの報道だったと思うのですが、人工知能にいろいろな文章を書かせていくと論理的な文章・合理的な文章が書け、人間の能力を超える表現をしてくるであろうと言われていました。しかし、不足するものは、倫理観と感性であると言われていた。AIがどんどん発展していったときに、人としての倫理観や感性をどのように身に付けていくのかという部分は、これからの時代にとっても大事なことだと思います。道徳教育においては、小中学校は進んでいるかと思いますが、高等学校では、教科横断的に道徳を取り入れていますので、教科としては存在しておりません。こういう視点からもこれからの時代において必要かと思えます。

(渡辺会長)

ありがとうございました。それでは、「特別支援教育分科会」に移ります。委員長のくすのき特別支援学校長の山川委員からご報告をいただきます。

(くすのき特別支援学校 山川校長)

平成28年度のこの会で、「個別の教育支援計画の活用と引き継ぎの手引き」を作成しました。それをもとにしまして、昨年度は各段階において、この手引きが、情報の引き継ぎや連携の在り方について、どのように使われているかということについて検討を行ってきました。学習指導要領においても、「どの学校においても特別な支援が必要な子に対しては、「個別の教育支援計画」を作成し、効果的に活用するよう努める」と明記されています。「個別の教育支援計画の活用と引き継ぎの手引き」ですが、理解と活用方法についてとてもわかりやすく記載がされていると感じました。しかし、昨年度の分科会で行ったアンケートによりますと、幼・保・こども園・高等学校においては、まだ十分に活用されていないということ、小中学校におきましても、作成時に活用している、研修で活用しているというのがほとんどであるということがわかりました。この手引きですが、作成の仕方だけではなく、引き継ぎにつきましても事例が記載されているなど、とても使いやすいものになっているかと思えます。しかし、そのようなことがしっかりと活用されていないということと、引き継ぎが十分に行われているのかに疑問があるところでもあります。

そこで、今年度ですが、「個別の教育支援計画の活用と引き継ぎの手引き」を更に有効に活用するための方策を考えていくとともに、中学校から高等学校への引き継ぎに重点をおきまして、保護者が進学先の高等学校に提出しやすい環境を整えるなど、中学校から高等学校への引き継ぎのシステムを構築していきたいと思っています。そのためには、「個別の教育支援計画」の引き継ぎについて、高等学校・中学校の校長先生宛に依頼文を作成し、周知していきたいと思えます。そして、来年度より引き継ぎができるように進めてまいりたいと考えております。

昨年度末に課題としてあげられたこととして、通常学級においても作成が進んでいるわけですが、保護者の理解を得ること、連携して作成するということが難しい状況にあるということも課題としてあげられておりました。この点についても原因を探り、解決策を考えてい

きたいと思っております。

(渡辺会長)

ありがとうございます。ただ今の報告について、ご質問・ご意見等はございませんか。

(山西教育長)

2点確認です。2月に確認をした「個別の教育支援計画」が高校につながらないということですが、入学試験があるため保護者が嫌がるということがあるため、それについては、教育委員会で話し合いました。中学3年生の最後の進路決定の保護者会の時に、保護者に話をして、高校に進学したら必ず渡すように話をして、豊橋市教育委員会からは校長宛てと保護者宛ての文書を作成していくということで進めております。保護者宛ての文書の写しについては、高等学校側にもお渡しをしますので、合格説明会等で「個別の教育支援計画」の提出をお願いしてください。

もう1点は、昨年度、特別支援の初心者研修会で豊橋の参加者がいなかったということなので、研修方法を一度見直して、5月に初心者研修の全体会を行い、10月でくすのき特別支援学校の見学をさせていただいていたものを、今年度からは、5月に全体会を行い、6月には障害種別ということで、言語・難聴については豊橋豊学校、自情・知的についてはくすのき特別支援学校、肢体については豊橋特別支援学校をお願いをするということで、障害種別に動き出したということをご了承いただきたいということです。

(渡辺会長)

3つの分科会から報告がありました。今年度の活動方針全体を通して、何かご意見はございますか。

(渡辺会長)

次に、第5、「その他」に移ります。まず、「第Ⅲ期時習館SSHについて」時習館高等学校長、川村委員をお願いします。

(時習館高等学校 川村校長)

本校は、今までもSSHを行ってきたわけですが、5年ごとの再申請となっていて、昨年度が10年目でした。そこで、継続申請をして、文科省からも許可をいただけたので、今年度から5年間、SSHを継続していきます。今回の目標は、「基礎科学力を持って自考自成一の国際人の育成」です。「自考自成一」というのは、自ら考え自ら成すということで、本校が70年前から大事にしている教育目標の第一に掲げているものであります。さらに、国際的に活躍できるような人材の育成ということで、それを可能にする国際教員コンソーシアムの研究を行っていきます。本校は1月22日にマレーシアにも姉妹校をつくりまして、ロンドンに2校、ドイツのミュンヘンに1校、マレーシア1校を含めて4校の姉妹校ができました。4校の姉妹校があるのは全国的にも珍しいかと思えます。こうしたネットワークを使って、世界がどのような人材育成をしているのかについて、教員の連携を図りたいと思っております。

高校1年生については、「科学の芽」を芽生えさせたいと考えております。これは、ノーベ

ル賞を受賞した朝永振一郎さんの言葉を借用したものです。不思議だと思えることが「科学の芽」、よく観察して確かめて考えることが「科学の茎」、謎が解けることが「科学の花」です。不思議だという問いを生む「科学の芽」を1年生で、それを伸ばしていく「科学の茎」を2年生で、謎が解けるといふ「科学の花」を3年生で咲かせようというものです。その後、大学・大学院で、「科学の実」を实らせ、新しい科学的発見をしてもらおうと考えております。授業としては、「理数課題研究」を3学年にわたって実施していきます。自分でテーマを見つけて、研究を続けていき、豊橋技術科学大学の留学生や大学院生にも来てもらい、話をしてもらおうというものです。

もう一つは、「科学の種」「科学の葉」です。地域貢献活動をして「科学の種」をまくべきであろうということで、この理科学教育分科会で行っております「小学校教諭理科実験講習会」や、「時習館科学の日」として中学生を招き、理科の実験講座を体験してもらおうということを継続して、「科学の種」をできるだけ広くまいていこうと思っております。また、本校の生徒について、授業ではない課外活動において「科学の葉」を茂らせるということも計画しております。

理科学教育分科会にも、いろいろと協力をいただくことになるかと思っておりますのでよろしくお願ひします。

(渡辺会長)

ただ今の時習館高等学校の説明につきまして、ご質問はございますか。

(内浦教育委員)

S S Hを10年間実施されてご苦労や高校生の様子はどうでしょうか。

(時習館高等学校 川村校長)

私は若い頃に、時習館高等学校に勤めていましたが、その時の科学部と比べて、人数的にも内容的にも、今の科学部の方が発展しています。また、第Ⅲ期S S Hのポイントは「課題研究」で、第Ⅱ期までは、3年生のみの実施でよかったです。第Ⅲ期では、3年間にわたって実施しないとS S Hの更新を文科省が認めてくれないということもありました。

(内浦教育委員)

時習館高等学校を訪問した時に、校内が熱気にあふれていました。壁に貼ってあった研究成果もそうですが、生徒たちが実験している姿とかの熱量が高いと感じました。進学した高等学校で、授業だけではない学問が学べるということ、小中学生の子どもたちや先生方にも知ってほしいと思いました。

(渡辺会長)

それでは、「今後の協議会並びに分科会の進め方について」事務局は説明をしてください。

(教育政策課 角野課長)

いろいろなお意見ありがとうございました。この後ですけれども、全体会の意見をふまえて、それぞれの分科会に分かれて、今後の活動等についての議論をお願いします。今後

は各分科会で研究を進めていただき、2月開催予定の「小中高特連携教育推進協議会」で、研究活動の成果や課題について、委員長から報告をしていただくことになります。

本日以降、新たな分科会設定についても教育長から提案いただきましたが、協議会を臨時開催する必要が生じましたら、連絡をさせていただきます。また、各分科会の話し合いが進むなかで、予算等が必要になったときなどは、事務局までご相談いただければと思います。今後ともよろしく申し上げます。

(渡辺会長)

ここで、オブザーバーとしてご参加をいただきました、東三河教育事務所、田原市教育委員会、蒲郡市教育委員会、豊川市教育委員会の先生方からご意見を頂戴したいと思います。

(東三河教育事務所 平野指導課長)

最初の方で「食育」について報告があったわけですが、連携が「食育」まで目が向いているということで驚いています。私が、この連携教育に携わったのが昨年度からですが、重要性を感じております。教育というものが、子どもにとって点であってはいけない、それが線になり、面になり、立体になるというようにつながりこそが必要だと感じました。私たちも、東三河だからできること、東三河だからやらなくてはいけないことの連携は何なのか考えていきたいと思っています。

昨年この会で、予算について話題になったかと思います。東三河については予算がついているわけですが、市においては、こういう素晴らしい会について、教育委員会以外の行政の方にも見てもらったり、それぞれの分科会に議員さんや文教委員さんにも出てもらったりするなど、巻き込んでいくのも一つの手かと思います。

(田原市教育委員会 杉田課長)

この会が10年余り続いていて、更に新しいものを生み出そうと動いていることについて、田原市も豊橋市を見ながら進めておりますので、参考にさせていただきながらやっていきたいと思っています。

教育長のお話の中で、最初の頃、教員の相互交流という分科会があり解散になったという話がありましたが、田原市は今から教員の相互交流を始めます。福江高等学校と福江中学校は、連携型中高一貫校として始めております。その中で、先生方が交流することが、生徒へのよい影響につながるということに気が付きまして、授業以外で高等学校と中学校の先生が交流していこうという動きが今年出始めております。小中高が連携することで、田原市が抱えている少子化や田原の子が豊橋の高等学校に行ってしまうということを少しでも止められたらと思っています。「田原の子は田原で育てよう」と言いながら進めております。今日の会の内容を市に持ち帰って参考に進めていきたいと思っています。

(蒲郡市教育委員会 山本課長補佐)

小中高の先生が一堂に集まられてつながりを大切に連携されていることに勉強させられました。特に、理科の研修を高等学校で開催して小中学校の教員が勉強できるというのは、お互いを知るチャンスであり、東三教育事務所の平野指導課長からの話のように、点から線、線から面、面から立体というように、できることを市教委として考えていきたいと思っています。

(豊川市教育委員会 中村指導主事)

小中高特連携教育について、豊橋市のように組織立てて実践できておりませんので、豊川市として取り組んでいかななくてはならないと思っています。豊川市も昨年度、県からキャリアコミュニティプロジェクト事業を委託されて、豊川工業高等学校とその校区の小中学校、御津高等学校とその校区の小中学校で交流を行って、成果があったと報告を受けています。一部の小中学校では、自主的に高等学校の先生を招いて交流を図っているという活動もあります。現場の先生方も連携を図ることが大切・重要であると考えていますので、教育委員会としてもバックアップをしていかななくてはならないと感じています。連携については、やれることからやっていくことが大切だと言われていきますので、授業を参観し合うとか、集まって情報共有を図る場を設定するとか、小さなことから始めて広げていくようなことを少しでもやっていかななくてはならないと感じながら今日は聞かせていただきました。

(渡辺会長)

それでは、全体を通してご意見がある方がいましたらお願いします。ご発言のなかった方にも一言いただけたらと思います。

(松山小学校 水野校長)

私も4年目になりますが、理科学分科会・英語教育分科会・特別支援教育分科会、すごく進歩してきたと感じています。英語教育については、英語特区の時代から新しい学習指導要領に至るまで、更に中高の連携が大切になると思います。特別支援教育についても、冊子を作っていただいて、センター的機能はかなり進んだという印象を受けました。理科については、他の教科と比べたときに、研究部授業研究会・研究発表会・研究部研究大会に、高等学校の先生方はかなり参加してくれています。また、川村委員が言われた「問題を見つける力」「倫理観」「感性」をどう育てるかというところで、かなり教材を探って実践しています。今後も連携を続けてほしいと思います。

(豊丘高等学校 滝澤教諭)

私は、理科学分科会で授業をさせていただきました。まだまだ小中学校の先生方におもしろいと思っていただけるレベルの授業ではなかったとっております。本年度もがんばって実施していきたいと考えています。先程、川村校長が言っておりましたが、「なんだろう、そうか」というところが理科の基本だと思っております。今後も、理科学分科会の方でがんばっていききたいと思います。

(豊橋南高等学校 森田教頭)

先程、センター試験にかわる入試の話がありましたが、昨年度、本校の生徒がその試行テストを受けました。数学ⅠAを受けた生徒のコメントを2つあげさせていただきます。1つは、「国語の試験では？」というものでした。もう一つは、「入試を変えるなら授業を変えてください。」というものでした。この2つのコメントは、高大接続や新学習指導要領につながっている気がしました。また、私は数学の教師ですが、愛知県の組織で、数学研究会というものがあります。数学研究会では、中学校と高等学校の先生方が1年おきに授業公開をして

意見交換をする場を設定しております。最後に、豊橋南高等学校では、この4月に教育コースを40名で開設しました。教育コースの生徒は、今日も、近隣小学校の校門で、挨拶運動を行っています。子どもを大切に、学校を支援しようとする大人に成長できるように本校は全力を尽くしてがんばっていきたくと考えています。

(豊橋西高等学校 冠者教諭)

豊橋西高等学校は、スクールソーシャルワーカーのモデル校に指定されていまして、私はコーディネーターをしております。スクールソーシャルワーカーの方と相談活動をしていまして、突然成績が悪くなってしまったり、学校生活が思わしくなかったりという生徒がいて、話を聞いていくと、親も忙しく、家事を生徒が行っており、経済的にも困難であるという状況で、勉強を頑張ろうと思っても特殊な事情で勉強に集中できない生徒がいることに気づくことができました。もっと早くにそういうことがわかり必要な支援を差し伸べることはできたならば、その生徒は、もっと違った学校生活を送ることができたのではないかと考えております。今年度から、豊橋市にスクールソーシャルワーカーの常勤が3名配置されたということを伺いまして、本校は、非常勤ですが、情報交換等ができれば、早い段階で生徒を支援することができるようになっていまして、と考えております。

(豊橋工業高等学校 加藤校長)

先程、山西教育長より、高等学校の授業を小中学校の先生に公開するというお話がありましたが、本校もいくつか公開はしておりますが、全くオープンというのには行っておりません。人数を絞って参観していただくのは可能ですので、アポイントをとっていただいても参観できる体制は考えていきたいと思っております。また、本校は、就職する生徒が多いということで、教員も会社の見学を行っています。その時に、先生方に2つ見てきてほしいと伝えています。1つは、会社とはどういったところか。もう一つは、我々が普段教えていることがどうやって活用されているのかということです。先程、朝倉委員より、「本校で見たことが小中学校でどう生かされているのか」というお話がありましたが、小中学校の先生方も本校の見学に来るときに、普段自分が教えていることが、将来どんなところで生かされるのかということの頭の片隅に入れて見学していただければ、次につながるかと思っております。本校も見学できる機会を増やしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

(豊橋商業高等学校 白井校長)

私は、以前、犬山・名古屋地区に勤務しておりましたが、豊橋市では、専門学科の高等学校も議論の場に加えていただけるのは、専門学科の理解を深めることにも役立っていると感じております。高等学校の公開授業ですが、本校は、中学校の先生向けに学校説明会を毎年行っております。その中で1時間、校内の授業を自由に参観していただいております。今回も豊橋市だけではなく、20校程度に来ていただきまして、見ていただくということをやっております。また、豊橋商業高等学校では、向山小学校との連携、中部中学校との連携ということで、ピンポイントではありますが連携を行っています。働くこと・ビジネスを学ぶのが商業高校だと思っております。高校時代に職業教育を学ぶことで、市に有能な人材を育てることができます。小中学校から本校に協力についていただければ、本校でできることは積極的に交流等させていただきます。また、専門高校では、進学は難しいと言われ

ていますが、本校では、今年度の高校1年生よりポートフォリオをつくらせまして、自分がやってきたことをまとめて振り返りをするということもやっております。専門高校からの進学はほとんど推薦です。そのため、ポートフォリオは非常に役に立ちます。専門学校で資格をとってということで、自分のやりたいことを見つけて進学していくことになるのと、昨年度、本校の卒業生で、大学2年で公認会計士の試験に合格した子もいますので、大学等にとってもプラスになるかと思えます。

(豊橋高等学校 丸崎校長)

昨年度より豊橋市の小中学校教諭の初任者研修を本校で実施しております。今年度は、本日と来週の2回に分けて61名の小中学校の初任者の先生方に、昼間定時制や夜間定時制について説明したり、授業を参観したりする会として開催しております。小中学校の先生方については、全日制普通科の高等学校を卒業した方がほとんどですので、先生方にいろいろな支援が必要な子どもたちがいる本校において、実際に生徒の様子を見ていただく大変良い機会であると思えますので、今後も続けていきたいと思えます。また、昨年度本校に様々な教育器具が導入されました。授業・行事・部活動など様々な教育活動の場面で、その教育器具をどのように活用していくかという研究を行い、多くの実践事例を作って発表する場を設定していきたいと思っています。

(豊橋聾学校 鈴木校長)

愛知の特別支援教育の動向ですが、平成27年度から小中学校の特別支援学級について、1人でも設置ができるようになりました。そのため、特別支援学級が増えている状況で、豊橋市内においても教育支援委員会において同様なことを聞いております。子どもの学びの場が充実していく中で、場だけではなくなくて、特別支援学校と小中学校との連携を図っていくことが大切になってくるかと思えます。山西教育長よりお話がありましたが、今年度より初心者研修が各校種ごとに行われるようになりました。昨日も、本校で豊橋市の初心者の先生方が研修を受けております。県の動向の中で豊橋市がスピード感をもって対応していただいております、ありがたいと感じております。また、田原市教育委員会の杉田課長より「田原の子は田原で」というお話がありましたが、特別支援学校に置き換えますと、田原市在住のお子さんが長時間通学をして特別支援学校に通っています。田原市に特別支援学校をつくっていただけるとありがたいと感じております。

(豊橋特別支援学校 白濱校長)

今まで別の地域に勤めていましたので今日の会に参加して、「豊橋市はすごい」と感じました。地域によって大きな差があることに驚いております。この会に、これだけのみなさんが集まっていること、年に数回開催していることについて、豊橋市は熱いなと感じております。特別支援分科会につきましても、平成21年度から設置をされているということで、豊橋市の特別支援教育に対する熱い思いを感じております。私たちも、その思いにこたえられるように、特別支援学校としてセンター的な機能を活用してもらえようしていきたいと思えます。

(大崎小学校 兼子校長)

小学1・2年生の姿を思い浮かべながら高等学校の先生方のお話を聞かせていただきました。加藤校長よりお話があった「授業を見て、小学校でどう生かされるのか」ということについてですが、授業で見たものをそのまま小学校の理科授業で行うというのではなく、授業を参観した先生が刺激を受けて、自校に戻って、目の前の子どもたちにどのような科学の種をまいてあげればよいかを考える機会になるととてもよい会であると思います。また、普段子どもたちを見ていて、言語能力の育成はとても大事だと思います。子どもたちが、単語でしかやりとりができていない、家庭での会話も単語で済ませているという現状がありますので、学校としては、「お話タイム」などを使って、自分の伝えたいことがしっかりと伝えられるように訓練をしていくことが必要であると強く思っています。普段の授業でも、自信をもって話せる子を育てることは大事であると思います。そうすることで、学んだことを生かせるようになったり、いろいろな方と共有したり、交流したりできるようになります。上手に話せない子は、一歩前に踏み出せないと思いますので、小学生に言語について指導することは大事だと思います。「個別の教育支援計画の活用と引き継ぎの手引き」については、初心者の方も含めて、この手引きを活用して理解を深めていくことはとても重要なことです。特別支援教育が特別なものではなくて、どの子にとっても大切な教育ということで、現職研修の場において、全職員と一緒に学ぶテキストとして活用できたらと思います。

(渡辺会長)

ありがとうございました。

以上をもちまして、「第22回豊橋市小中高特連携教育推進協議会」を終了いたします。